



みどりの感謝祭に出展!

第28回「みどりの感謝祭 みどりとふれあうフェスティバル」(主催:みどりの感謝祭運営委員会)が、5月12~13日の2日間にわたり日比谷公園(東京都千代田区)で開催されました。多くの人たちに、緑についての理解と関心を高めてもらう「みどりの月間(4月15日から5月14日まで)」の締めくくりイベントとして毎年開催されているものです。

森林・林業などに関係する企業、団体、NPO等が数多く出展しました。期間中は概ね晴天に恵まれ、多くの皆様にご来場していただきました。



▲輪投げを楽しむ子どもたち

森林保険センターの出展ブースでは、輪投げ体験や、様々な種類の木の葉を使ったハガキづくり体験を行いました。

ちょうど母の日でもあったことから、参加した子どもたちは、葉っぱを上手に並べて、母親の似顔絵を描き込んでメッセージカードにしたり、カラフルに色を塗ったりして、オリジナルのハガキづくりを楽しんでいただきました。



▲ミス日本みどりの女神である竹川智世(たけかわちせ)さんにもお越しいただきました。

また、来場者の「森林保険」についての質問に答えるなど、森林保険について理解を深めていただく良い機会となりました。



▲葉っぱを使ったハガキ作りの様子

全国の担当者が集まりました!

5月10~11日に神田センタービル(東京都千代田区)において平成30年度森林保険全国担当者会議が開催されました。

この会議は、森林組合連合会等の森林保険担当者を対象として、森林保険の戦略的な加入促進及び円滑な業務運営を進めるとともに、森林保険センターと森林組合系統が一体となった取組を強化するため開催されたものです。これまでブロック毎に開催していましたが、今回初めて全国会議として開催し、総勢で60名の参加がありました。



▲全国担当者会議の様子



1日目は、来年度から販売開始となる新しい保険商品の解説、コンプライアンスや事務処理の留意事項として引受・契約管理・損害調査の講義などが行われました。2日目は、森林保険の現状や加入促進に向けた取組の講義のほか、青森県、福井県、京都府、島根県の各森林組合連合会から、県有林や林業事業体などへの加入促進を行った事例などについて紹介がありました。



▲取組紹介を行った島根県森林組合連合会の伊達氏

全国の担当者が一堂に集まったこともあり、これまで以上に活発な意見が交わされ、限られた時間ではありましたが、業務への理解を深められた2日間となりました。

各担当者がこの会議で得られた情報や知識を活かし、森林所有者の皆様へのわかりやすい情報提供や加入促進、窓口業務、円滑な事務手続きに繋げてまいりたいと考えております。

森林保険Q&A



しつもん

噴火災による保険事故の認定はどのように行いますか?

噴火災による被害としては、主に降灰そのものによる成長阻害と、その後の降雨等の気象条件によって生ずるものがあります。降灰の付着や林地への堆積によって樹木全体が枯死し、噴火災として認定するには一定の期間を要します。なお、林内に堆積した降灰などが降雨や融雪により土石流などになって流出したことにより受けた被害は、直接的に噴火後の降雨などによって引き起こされるものであることから、このような場合は水害として取り扱うことになります。